

みんなのポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

3. 展示

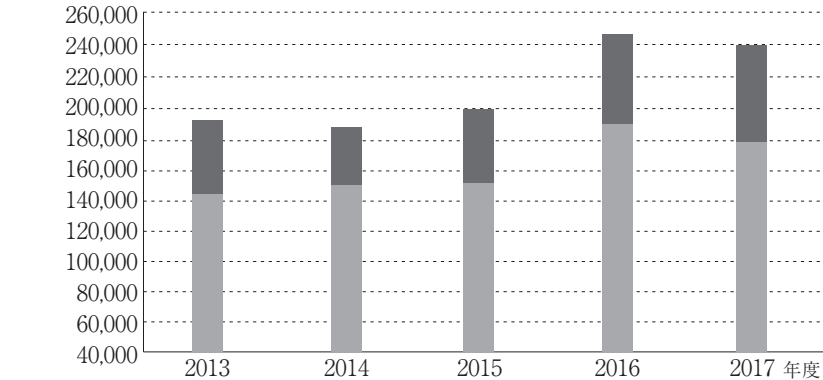
メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-04-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009562

3 展 示

入館者数

●2017年度総観覧者数（共催展、巡回展含む） 244,359人

●入館者数（5年間。共催展、巡回展除く）



合計（人）	2013	2014	2015	2016	2017 年度
団体	47,978	37,684	46,176	52,744	59,512
個人	144,263	149,931	153,100	193,761	179,964

本館展示

●展示専門部会

本館展示新構築にかかわる支援・連絡調整と本館展示の運営にかかわる連絡調整、ならびに特別展・企画展の企画内容の点検支援・連絡調整を行う組織として、文化資源運営会議のもとに展示専門部会を置く。同部会は本館展示新構築総括チームと特別展・企画展ワーキング・グループより構成する。なお、本館展示の運営・新構築にかかわる案件の全体での検討の場として、随時、本館展示プロジェクトリーダーからなる拡大展示専門部会を開催する。

●本館展示プロジェクトチーム

	代表者	構成メンバー（五十音順）				
オセアニア展示	ピーター・マシウス	印東道子	菊澤律子	丹羽典生	林 勲男	
アメリカ展示	伊藤敦規	岸上伸啓 關 雄二 荒川史康* (2017.11.1～2018.6.30)	齋藤 晃 八木百合子*	齋藤玲子 ジェームズ・サバール* (～2017.6.30)	鈴木七美 鈴木 紀	
ヨーロッパ展示	宇田川妙子	新免光比呂	森 明子			
アフリカ展示	三島禎子	飯田 卓	池谷和信	川瀬 慈	吉田憲司	
西アジア展示	菅瀬晶子	相島葉月	上羽陽子	西尾哲夫	山中由里子	
音楽展示	福岡正太	川瀬 慈	笹原亮二	寺田吉孝		
言語展示	菊澤律子	西尾哲夫	吉岡 乾	相良啓子		
南アジア展示	南 真木人	上羽陽子 三尾 稔	菅野美佐子* 吉岡 乾	竹村嘉晃* 寺田吉孝	松尾瑞穂	
東南アジア展示	檜永真佐夫	佐藤浩司	信田敏宏	平井京之介	福岡正太	
中央・北アジア展示	藤本透子	池谷和信	辛嶋博善*	小長谷有紀*	寺村裕史	
東アジア展示（朝鮮半島の文化）	太田心平					
東アジア展示（中国地域の文化）	河合洋尚	卯田宗平	韓 敏	小長谷有紀*	野林厚志	横山廣子
東アジア展示（アイヌの文化）	齋藤玲子	岸上伸啓	北原次郎太*	吉田憲司		
東アジア展示（日本の文化）	日高真吾	池谷和信 寺村裕史	卯田宗平 野林厚志	笹原亮二 廣瀬浩二郎	菅瀬晶子 南 真木人	出口正之
情報・インフォメーション	野林厚志	飯田 卓 丸川雄三	伊藤敦規	寺村裕史	廣瀬浩二郎	福岡正太
イントロダクション展示		※2017年度は、展示情報高度化事業実施部会が担当する。				

*併任教授、客員教員、特別客員教員、外国人研究員等を示す

●特別展・企画展ワーキング

開催を予定する各特別展・企画展の実行委員会、本館展示プロジェクトリーダー（1～2名）

●本館展示の新構築（展示チームは一般公開日現在）

アフリカ展示

一般公開 2009年3月26日～

アフリカ展示チームリーダー 飯田 卓

アフリカ展示チームメンバー（館内）池谷和信 川瀬 慈 竹沢尚一郎 三島禎子 吉田憲司

内容

人類誕生の地とされるアフリカは、常に外部世界と結びつきながら変化を重ねてきた。私たちが、現在目にするアフリカ大陸の中の、文化や言語の多様性は、そうした変化の結果にほかならない。新たに構築したアフリカ展示では、人びとの「歴史を掘り起こす」営みに目を向けるとともに、現在のアフリカに生きる人びとの生活のありさまを4つの「動詞」（憩う・働く・装う・祈る）のコーナーに分けて紹介する。

西アジア展示

一般公開 2009年3月26日～

西アジア展示チームリーダー 山中由里子

西アジア展示チームメンバー（館内）上羽陽子 菅瀬晶子 西尾哲夫

内容

中東ともよばれる西アジアの人びとは、自分たちが暮らす地域をマシュリク（日出ずる地）とよび、マグリブ（日没する地）と呼ばれる北アフリカと深い関係を保ってきた。乾燥地帯が大部分を占め、遊牧を生業とする人びとが移動する一方、バグダードやカイロなどでは古来より都市文化が栄えてきた。多くの住民はムスリムだが、ユダヤ教やキリスト教発祥の地でもある。新たに構築した西アジア展示では、地域規模の変動の時代に移りゆく人びとの暮らしを紹介する。

音楽展示

一般公開 2010年3月25日～

音楽展示チームリーダー 福岡正太

音楽展示チームメンバー（館内）川瀬 慈 笹原亮二 寺田吉孝

内容

私たち人類は、音や音楽によって意志や感情をつたえ、自分の位置を知り、訪れたことのない場所や過ぎ去った時に思いを馳せ、心を奮い立たせたり慰めたりしてきた。また、神仏や精霊など見ることのできない存在と交わってきた。この展示では、音や音楽と私たちの存在とのかかわりを、世界各地の「太鼓」、「ゴング」、「チャルメラ」、「ギター」等の例を通して考える。

言語展示

一般公開 2010年3月25日～

言語展示チームリーダー 庄司博史

言語展示チームメンバー（館内）菊澤律子 西尾哲夫 八杉佳穂

内容

音声や身ぶりを媒体とすることは、高度に発達した伝達手段で、感情から科学的な知識まで多くの情報を伝えることができる。文化の多様性を反映すると同時に、人間のもつ認知能力や創造性を生みだすことは、人類のもつかけがえのない資産である。言語展示では、「言葉を構成する要素」、「言語の多様性」、「世界の文字」というテーマを中心に構成する。

オセアニア展示

一般公開 2011年3月17日～

オセアニア展示チームリーダー ピーター・マシウス

オセアニア展示チームメンバー（館内）印東道子 菊澤律子 久保正敏 小林繁樹 須藤健一 丹羽典生
林 勲男

内容

海がほとんどの面積を占めているオセアニアには、大小数万をこえる島々が点在している。そこには、発達した航海術をもち、根栽農耕を営む人々が暮らしてきた。「移動と拡散」「海での暮らし」「島での暮らし」では、資源の限られた島環境で、さまざまな工夫をして生活してきた様子を展示している。「外部世界との接触」「先住民のアイデンティティ表現」では、外の世界と出会うなかで、人びとが伝統文化をどのように継承、発展させてきたかを紹介する。

アメリカ展示

一般公開 2011年3月17日～

アメリカ展示チームリーダー 鈴木 紀

アメリカ展示チームメンバー (館内) 伊藤敦規 岸上伸啓 齋藤玲子 鈴木七美 齋藤 晃 關 雄二
八杉佳穂

内容

広大なアメリカ大陸には、極地から熱帯雨林まで、さまざまな自然環境が見られる。人びとは、それぞれの環境に応じた生活を営んできた。一方で、ヨーロッパ人による征服と植民の歴史を経験したこの地には、日常生活の隅々まで、外来の文化が浸透していった。ここでは衣、食、宗教に焦点をあて、アメリカ大陸の多様性と歴史の重なりを明らかにするとともに、土着の資源に現代的価値を見出そうとする芸術家や工芸家のすがたを紹介する。

ヨーロッパ展示

一般公開 2012年3月15日～

ヨーロッパ展示チームリーダー 宇田川妙子

ヨーロッパ展示チームメンバー (館内) 庄司博史 新免光比呂 森 明子

内容

ヨーロッパは、16世紀から20世紀にかけて、キリスト教や近代の諸制度をはじめ、さまざまな技術や知識を世界各地に移植した。現代、この流れが逆転するなかで、世界中からの移民とともに、彼らの文化も社会の一部となりつつある。ここでは、時間の流れに注目しながら伝統的な生活様式と宗教、近代の産業化、さらに現代の新しい動きが層をなしてヨーロッパをつくりあげていることを示している。

情報・インフォメーション

一般公開 2012年3月15日～

情報・インフォメーションチームリーダー 野林厚志

情報・インフォメーションチームメンバー (館内) 飯田 卓 伊藤敦規 田村克己 廣瀬浩二郎 福岡正太

内容

展示資料の情報を検索して調べることのできる「リサーチデスク」、研究者が取り組んでいる調査を紹介する「研究の現場から」、展示資料を見てさわって理解する「世界をさわる」の3つのコーナーを通して、みんなの研究や展示をより詳しく知ることができる。展示場で見た資料についてもっと知りたい、みんなの研究者って何を調査しているの、モノと身近に接してみたいという探究心を満たし、知識をさらに深める場としてご活用いただきたい。

東アジア展示 (日本の文化)

一般公開 「祭りと芸能」「日々の暮らし」 2013年3月22日～

「沖縄の暮らし」「多みんぞくニホン」 2014年3月20日～

東アジア展示(日本の文化)チームリーダー 日高真吾

東アジア展示(日本の文化)チームメンバー (館内) 池谷和信 近藤雅樹 笹原亮二 庄司博史 菅瀬晶子
野林厚志 出口正之

内容

北海道から沖縄県まで、南北に細長い日本列島は、多様な自然に恵まれています。こうした環境のなかで、隣接する諸文化と影響しあいながら、さまざまな地域文化を展開してきた。また、近年では多くの外国人が私たちの隣人として生活をともにしている。ここでは、「祭りと芸能」「日々の暮らし」「沖縄の暮らし」「多みんぞく

ニホン」という4つの角度から、日本文化の様相を展示している。

東アジア展示（朝鮮半島の文化）

一般公開 2014年3月20日～
東アジア展示(朝鮮半島の文化) チームリーダー 朝倉敏夫
東アジア展示(朝鮮半島の文化) チームメンバー (館内) 太田心平

内容

朝鮮半島の人びとは、外部の民族から影響を受けつつも、独自の文化を育んできた。有史以前は東シベリアの諸民族から、その後は中国から取り入れた文化要素を、独自のものに再編し、世界に例を見ないほど高度に統合された文化を獲得してきた。近代には日本に植民地支配され、独立後にはふたつの分断国家として急速な近代化を進めた。そして現代には、積極的に世界に進出する韓国人や、コリア系の海外生活者の姿も見られる。こうした文化の歴史的な重なりや躍動性を、精神世界、衣食住、あそびと知をテーマに紹介する。

東アジア展示（中国地域の文化）

一般公開 2014年3月20日～
東アジア展示(中国地域の文化) チームリーダー 塚田誠之
東アジア展示(中国地域の文化) チームメンバー (館内) 韓 敏 小長谷有紀* 田村克己 野林厚志
横山廣子

内容

中国地域では、広大な面積と高低差のある地形がうみだす多様な自然環境のもと、さまざまな民族文化が育まれてきた。漢族が人口の90%以上を占め、平野部を中心に全国に居住している。大陸の55の少数民族は、おもに西南、西北、東北地方の高地や草原に居住しており、台湾には漢族のほか先住のオーストロネシア系民族が居住している。また、世界各地に、中国を故郷とする華僑・華人がくらしている。多様な生活環境から生みだされたさまざまな民族の文化を、歴史や地域性をふまえ、生業、装い、楽器、住居、工芸、宗教と文字、漢族の婚礼や祖先祭祀、台湾の原住民族、華僑・華人をテーマに紹介する。

南アジア展示

一般公開 2015年3月19日～
南アジア展示チームリーダー 三尾 稔
南アジア展示チームメンバー (館内) 上羽陽子 杉本良男 寺田吉孝 松尾瑞穂 南 真木人 吉岡 乾
竹村嘉晃* 豊山亜希*

内容

南アジア地域は、北部の山岳地帯から西はアラビア海沿岸、東はベンガル湾沿岸にいたるさまざまな自然環境のもと、多様な宗教や文化、生活様式をもつ人びとが共存しあう知恵を育んできた。経済発展が著しい現代においても、その知恵は保たれている。この展示では、宗教文化や生業・工芸の多様性、都市を中心とした活気あふれる大衆文化、またグローバル化のなかで花ひらく染織文化のすがたを紹介する。

東南アジア展示

一般公開 2015年3月19日～
東南アジア展示チームリーダー 信田敏宏
東南アジア展示チームメンバー (館内) 榎永真佐夫 佐藤浩司 平井京之介 福岡正太 吉田ゆか子*

内容

森と海に囲まれた東南アジア。熱帯・亜熱帯の気候にくらす人びとは、早朝の涼しい時間から働きはじめ、40度近くに達する日中は屋内でなどをして暑さをしのぐ。夕方、スクールが通り過ぎた後は、少し暑さが和らぎ、人びとは買い物や農作業に出かける。日が落ちて涼しくなると、友人や家族と屋台に出かけたり、演劇を見たりして余暇を楽しむ。本展示場では、「東南アジアの1日」をテーマに、その多彩な民族文化を紹介する。

中央・北アジア展示

一般公開 2016年6月16日～
中央・北アジア展示チームリーダー 藤本透子

中央・北アジア展示チームメンバー (館内) 池谷和信 佐々木史郎 寺村裕史 小長谷有紀*

内容

中央・北アジアは、ユーラシア大陸の北東部を占める広大な地域である。古くから東西南北をむすぶ交渉路としての役割を担い、多様な民族が行き交った。20世紀に社会主義を経験した後、市場経済に移行し、グローバル化の波にさらされながら伝統を再評価する動きがみられる。「自然との共生」「社会主義の時代」というふたつの共通テーマをふまえて、「中央アジア」「モンゴル」「シベリア・極北」の3つの地域に生きる人びとの今を紹介する。

アイヌの文化展示

一般公開 2016年6月16日～

アイヌの文化展示チームリーダー 齋藤玲子

アイヌの文化展示チームメンバー (館内) 伊藤敦規 岸上伸啓 佐々木史郎 吉田憲司 北原次郎太*

内容

アイヌは、北海道を中心に日本列島北部とその周辺に暮らし、寒冷な自然環境のもとで独自の文化をはぐくんできた先住民族である。江戸時代に幕府による支配が始まり、明治時代に同化がすすめられると、アイヌは差別を受け生活に困るようになった。しかし近年、日本政府はその歴史的事実を認め、アイヌ民族を尊重した政策に取り組みはじめた。ここでは、伝統を継承しつつ、あらたな文化を創造する人びとの姿を紹介する。

*併任教授、客員教員、特別客員教員、機関研究員等を示す

特別展示・企画展示など

●特別展示

開館40周年記念特別展「ビーズ——つなぐ・かざる・みせる」

会 期 2017年3月9日～6月6日

会 場 特別展示館

主 催 国立民族学博物館

協 力 大阪府立近つ飛鳥博物館、大阪府立弥生文化博物館、岡山市立オリエント美術館、京都古布保存会、公益財団法人大阪府文化財センター、KOBETON ほんま玉ミュージアム、松野工業株式会社、ミキモト真珠島 真珠博物館、一般財団法人千里文化財団

入場者数 54,292人

実行委員長 池谷和信

実行委員 (館内) 野林厚志、齋藤玲子

(館外) 遠藤 仁 (秋田大学)、川口幸也 (立教大学)

内容

飾り玉、数珠玉、トンボ玉などを総称するビーズ。ガラスや石や貝だけではなく動物の歯や虫の羽などから新たな世界が作りだされる。本展では、私たち人類が作り出した最高の傑作品の一つとしてビーズをとらえて、つくる楽しみ、飾る楽しみをとらえて日本や世界の人びとにとってのビーズの魅力を紹介した。

開館40周年記念特別展「よみがえれ！ シーボルトの日本博物館」

会 期 2017年8月10日～10月10日

会 場 特別展示室

主 催 国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館、朝日新聞社

共同企画 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、長崎歴史文化博物館、名古屋市博物館

特別協力 ミュンヘン五大陸博物館、ブランデンシュタイン＝ツェッペリン家

協 力 全日本空輸、一般財団法人千里文化財団

後 援 日本赤十字社

入場者数 21,349人

実行委員長 園田直子

実行委員 (館内) 吉田憲司、野林厚志、齋藤玲子、日高真吾

(館外) 佐々木史郎 (国立アイヌ民族博物館設立準備室)、日高 薫 (国立歴史民俗博物館)

内容

江戸時代後期に來日したシーボルトは、日本の文化や自然に関わる膨大な資料をヨーロッパに持ち帰った。ミュンヘン五大博物館のシーボルト・コレクションおよびシーボルトの末裔にあたるブランデンシュタイン＝ツェッペリン家所蔵の関係資料をとおり、シーボルトの日本博物館が150年ぶりによみがえった展示となった。

●企画展示

開館40周年記念・カナダ建国150周年記念企画展「カナダ先住民の文化の力——過去、現在、未来」

会 期 2017年9月7日～12月5日
 会 場 企画展示場
 主 催 国立民族学博物館
 後 援 在日カナダ大使館、日本カナダ学会
 協 力 カナダ観光局、カナダ歴史博物館、ブリティッシュコロンビア大学人類学博物館
 入場者数 60,753人
 実行委員長 岸上伸啓
 実行委員 (館内) 齋藤玲子、伊藤敦規

内容

多様な民族が住むカナダは、2017年に建国150周年の節目を迎えた。建国以前からその地に住んできた人びとは、カナダ先住民と呼ばれている。彼らはヨーロッパ人との接触を契機として大きな社会変化を経験したが、独自の文化を継承するとともに、あらたに創り出してきた。本展では、カナダの北西海岸地域、平原地域、東部森林地域、亜極北地域、極北地域における多様な先住民文化を紹介した。

開館40周年記念企画展 アイヌ工芸品展「現れよ。森羅の生命—— 木彫家 藤戸竹喜の世界」

会 期 2018年1月11日～3月13日
 会 場 企画展示場
 主 催 国立民族学博物館、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
 後 援 国土交通省、北海道教育委員会、公益社団法人北海道アイヌ協会、大阪府、吹田市、吹田市教育委員会
 出品協力 一般財団法人前田一歩園財団、NPO法人元気の丘ギャラリー、株式会社ほくみん、正徳寺、鶴雅リゾート株式会社、角谷 博氏、佐々木 猛氏、藤戸竹喜氏、吉田いし氏
 入場者数 24,563人
 実行委員長 齋藤玲子
 実行委員 (館内) 吉田憲司、岸上伸啓、伊藤敦規
 (館外) 五十嵐聡美(北海道立近代美術館)、北原次郎太(北海道大学アイヌ・先住民研究センター)、岡田恵介((公財)アイヌ文化振興・研究推進機構)

内容

藤戸竹喜(ふじと たけき/1934-)は、旭川を拠点に「熊彫り」を生業としていた父のもとで、12歳から木彫を始めた。以来、父祖の彫りの技を受け継ぎながら、熊をはじめ狼やラッコといった北の動物たちと、アイヌ文化を伝承してきた先人たちの姿を木に刻み、繊細さと大胆さが交差する独自の世界を築いてきた。卓抜なイメージ力・構想力とともに、生命あるものへの深い愛情に根ざした生気あふれる写実表現は、他の追随を許さず、北海道を代表する彫刻家として国内外から高い評価を得ている。本企画展では、動物たちの俊敏な動きをとらえた初期作から、民族の歴史と威厳をモニュメンタルに伝える等身大人物像まで、約90点の作品を一堂に展示し、70年にわたる創作活動の軌跡とその背景をたどった。

●その他

開館40周年記念新着資料展示「標 交紀(しめぎ ゆきとし)の咖啡(コーヒー)の世界」

会 期 2017年9月28日～11月14日
 会 場 企画展示場
 プロジェクトリーダー 菅瀬晶子

内容

かつて東京・吉祥寺に、伝説の自家焙煎咖啡店があった。その名は「もか」。マスターの標交紀は、コーヒー豆

の焙煎技術の探究にたぐいまれなる熱意を注ぎ込み、その生涯を捧げた。ついにはコーヒー文化の源流を求めて世界各地を旅して回り、コーヒー関連資料を収集した。本展では、みんぱくに寄贈された300点以上にものぼる「標コレクション」から厳選した約50点をもとに、中東からヨーロッパを経由して日本へ伝わり、標の手によって芸術の域にまで昇華された「咖啡」の世界を紹介した。

開館40周年記念写真展「世界のフィールドからみんぱくへ」

会 期 2017年11月9日～12月26日

会 場 企画展示場

企画統括 飯田 卓

内容

みんぱくの展示は、世界各地での学術調査と資料収集をもとにしている。1977年に初めて展示場が作られたときも、数々の調査や収集が基礎になった。この写真展では、そうした館員および先駆者たちの活動とともに、40年前の各地のようすを関係する展示場に、写真を設置して紹介した。

●巡回展示

巡回展「イメージの力——国立民族学博物館コレクションにさぐる」

会 期 2017年7月22日～9月3日

会 場 石川県立歴史博物館

入場者数 4,883人

担当者 吉田憲司

内容

2014年2月～6月に国立新美術館にて、また、同年9月～12月に本館特別展として、2015年6月～8月には福島県の郡山市立美術館にて、2016年10月～11月には香川県立ミュージアムにて巡回展を開催した。

今回の石川県立歴史博物館での展覧会「イメージの力」は、国立民族学博物館のコレクションの中から世界各地の造形を精選し、人類の生み出したイメージの喚起する感覚や効果、すなわちイメージの働きや享受のありかたに普遍性があるかを検証した。

展示関連出版物およびプログラム

●本館展示

国立民族学博物館展示案内

発行日 2017年11月8日

●特別展示

「ビーズ——つなぐ かざる みせる」(再販)

発行日 2017年5月31日

編 者 池谷和信

発 行 国立民族学博物館

“BEADS IN THE WORLD”

Published in 2017

Edited by Kazunobu IKEYA

Published by National Museum of Ethnology

「現れよ。森羅の生命—— 木彫家 藤戸竹喜の世界」

発行日 2017年10月12日

編 集 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

発 行 国立民族学博物館

●研究用映像資料

「アリラン峠を越えていく：在日コリアンの音楽」（番組番号7240）

制作監修：寺田吉孝

在日コリアンの音楽は、かれらの歴史や生活を映し出している。過去を知り、未来を考えるための音楽のドキュメント。

「バイラヴダンス」（番組番号7241）

制作監修：南 真木人

ネパールのボカラで6年おきに催される仮面舞踊。シヴァ神の憤怒の相であるバイラヴ神や女神など12の神々が、ヒンドゥー神話に基づき踊ります。

「めばえる歌：民謡の伝承と創造」（番組番号7244）

制作監修：川瀬 慈

井上博斗、松田美緒が、地域のわらべ歌や民謡を自らのやりかたで継承し、歌に新たな生命を与えていく姿をとらえた。

●マルチメディア番組

時を超える南インドの踊り（番組番号6058）

制作監修：寺田吉孝

南インドのヒンドゥー寺院で奉納された踊りから生まれたバラタナーティヤム。名手ナルタキ・ナタラージさんによる民博公演の記録。

●「みんなく電子ガイド」プログラム数（2018年3月31日現在）

展示プロジェクト地域	プログラム数			
	日本語版	中国語版	英語版	韓国語版
オセアニア	23	23	23	23
アメリカ	27	27	27	27
ヨーロッパ	12	12	12	12
アフリカ	17	17	17	17
西アジア	16	16	16	16
南アジア	40	40	40	40
東南アジア	32	32	32	32
中央・北アジア	30	30	30	30
東アジア				
朝鮮半島の文化	47	47	47	47
中国地域の文化	39	39	39	39
アイヌの文化	10	10	10	10
日本の文化	35	35	35	35
音楽	0	0	0	0
言語	0	0	0	0
総 計	各 328			